



No. 99

ティー・ブレイク

Tea Break

空梅雨

太平洋高気圧（太平洋海気団）とオホーツク海高気圧（オホーツク海気団）が衝突したところに前線が生まれ、雨が降る。これが梅雨のからくりである。ところが稀に、殆ど雨が降らないこともあり、そうしたときは空梅雨になる。

空梅雨のときは冷夏であることが多い。それは、空梅雨が、太平洋高気圧が弱いことによって、夏になっても、依然としてオホーツク海気団がそのまま居座り続けることになるからである。

ところが今年は、空梅雨のようでありながら、猛烈な暑さである。東京では、「7月では観測史上、最大の暑さ」ということで、39.4℃が記録された。

ところで、「二つの勢力がぶつかったときに、その狭間で雨が降る」というのは、何も海気団に限った話ではない。人間の派閥同士がぶつかったときもそうである。偶然にも同じ時期に、何人かの知り合いの事務所やベンチャー企業でも、そういったことが起こり、組織内に雨が降った。そうして、いずれか勝ったほうが後を平定したのは良いほうで、中には完全に分裂してしまったものもある。その中の一人から、そのことを嘆く文章を綴ったメールが来たので、ちょっとした返事を書いた。

経営者というのは、それが経営者である以上、どんな職種であれ、内部からの賃上げ要求と外部からの値下げ要求という、二つの矛盾した事項をうまく処理しなければならない。それが経営者の

仕事である。

例えば、企業の間管理職であれば、その上司からの不当な要求などは、心のどこかで「不当だ」と思えるから、何とか処理することができる。ところが、上記のふたつの勢力の言い分は、それぞれ誠にもって正当であり、その調整はとても難しい。そして、そうであるがゆえに間違える。

ところが、こうした経営上の試行錯誤は、傍から見れば、経営者が本気であればあるほどとても滑稽であり、また、悲劇的なことに、経営者がぶち当たっているそうした問題は、第三者から見ればとても簡単そうな問題に見え、「俺がやったほうがましだ」と思う輩も出て来る。経営者というのは、誠にもって孤独な職業である。しかし、孤独なのは君だけではない。そのことだけはどうか分かって欲しい。

私からの返信メールに対する返事は、まだない。しかしながら、空梅雨であっても、紫陽花は咲く。外は異常な猛暑であるにもかかわらず。

(正)

